



12月の主な行事

1日	映画の日、世界エイズデー	10日	世界人権デー
3日	カレンダーの日	22日	冬至
7日	大雪	23日	天皇誕生日
8日	針供養	25日	クリスマス
9日	漱石忌	31日	大晦日



大きな安心を
スピーディーにお届けする

<取扱代理店>

株式会社コスモほけんサービス

代表 田澤 淑秋

九戸郡軽米町軽米8-79-2

TEL 0195-46-4023

二戸市福岡字下町8

TEL 0195-43-3733

今月のかわら版 : 1 「火災に注意!」

これからだんだん寒くなっていくにつれて、暖房などで火を使うことが多くなります。また空気が乾燥しているため火災が起りやすく、火が広がりやすい季節を迎えます。出火原因で多いものは、放火(「放火の疑い」を含む)がダントツ1位で、タバコ・ストーブ・コンロが上位に入っています。火災が発生しないよう、予防を心がけましょう。

◆放火を予防するためには…

- ・家の周りに燃えやすいものを置かないようにしましょう。特に道路に面した軒裏などに積まれた古雑誌や古新聞などは狙われやすいものです。
- ・照明器具を設置し、暗がりをつくらないようにしましょう。
- ・町内会・自治会・事業所などと一体となり協力体制を確立し、放火されにくい地域環境をつくりましょう。

◆タバコの火は…

- ・寝たばこは絶対やめましょう。また灰皿に水を溜めておくのも効果的です。
- ・吸い殻をゴミ箱に捨てる時は、水をかけるなどして十分注意しましょう。

◆ストーブの周りは…

・可燃物が接触することで火災が多く発生しています。また、ストーブを使用中に、近くに置いてあったスプレー缶が高温になり破裂して火災になるケースもあります。ストーブの周りには、衣類や寝具類、紙等の可燃物を置かないようにしましょう。

◆コンロの火は…

- ・意外と多いのがコンロの消し忘れです。調理中に電話がかかってきたり、訪問者があつたり等、コンロを離れるときは面倒でも必ず火を消しましょう。
 - ・コンロの周りに燃えやすいものを置いていると、直火と接触したり、輻射熱で火災に至ることがありますので、コンロの周りは常に整理整頓しておきましょう。
- また、調理中コンロの火が袖口や胸部に燃え移る等、着ている服に着火する火災が急増しています。特に高齢者に多いようです。最近では、火が接しても着火しにくく、燃え広がるのを防ぐ防災製品が販売されています。寝具類、エプロン、アームカバーなどがありますので、利用してみるのもいいですね。



今月のかわら版 : 2 「冬至の習慣」

毎年12月22日頃に、一年で最も夜の長さが長くなる日があり、これを冬至といいます。冬は植物が枯れ、動物は冬眠してしまうため、食料が手に入りにくくなります。更に日照時間が短いため生命の源である太陽の恵みを受用することが出来にくく、人々は生活の不安を感じていました。特に北半球では、冬至に対する不安は大きかったようです。昔は冬至の日は生命の終わる時期で、「死に一番近い日」と言われており、その厄[やく]を払うために体を温め、無病息災を祈っていました。その祈りのために、香りに邪を祓う霊力があると信じられているゆずのお風呂に入ったり、野菜の少ない季節に栄養を補給するためのかぼちゃを食べるなどして夜を越していたようです。

◆冬至の習慣

冬至の習慣といえは様々なものがあります。いくつかご紹介しましょう。

「ゆず湯」…ゆずを浮かべたお風呂です。ゆず湯は血液の流れをよくする効果があり、冷え性や神経痛、腰痛などに効きます。

更にビタミンCも豊富なため、湯につかり全身からそれらの成分を吸収することでひび・あかぎれを治し、



風邪を予防する効果があります。

「かぼちゃ」…ビタミンAやカロチンが多く含まれるので、風邪の予防になりやすいという裏付けもあるようです。またかぼちゃの中身は「黄色」であることから、これは邪気を払う力がある色として信じられていましたし、金運を祈願する意味もありました。

「冬至粥(あずき粥)」…あずき入りのかゆのこと。疫病神が赤い色を恐れることから、あずきの赤色で、疫病神を遠ざける意味があります。

「ん」のつく食べ物…地方によっては、みかん・ぎんなん・うどん等、「ん」のつく食べ物を7種類食べると幸せになるともいわれているそうです。

2014年は冬至と新月が重なる特別の日です。しかも、19年に1度しかないそうで、この珍しい冬至のことを「朔旦冬至(さくたんとうじ)」といいます。「朔旦冬至」はめったに訪れることのない大変おめでたい日とされ、昔は宮中などでも宴が催されていたといえます。